

JA全農ウィークリー

4-5面

インタビュー お笑いタレント・小島よしおさん

「田んぼの生きもの調査」の魅力を発信

(広報・調査部)

2面

長澤会長ら、

九州の豪雨被災地を訪問

(総務人事部)



「とれたて元気市 広島店」の親子農業体験
でサツマイモを定植(2面)



宮城県内で共同購入トラクター100台目の
購入者となった高橋保さん=右(3面)



田んぼの生きもの調査を行ったお笑いタレントの小島よしおさん(4-5面)

2 「とれたて元気市 広島店」
親子農業体験を開催(広島県本部)

3 共同購入トラクター 宮城県内
受注100台を達成(宮城県本部)

生活困窮者支援に協賛し米25トン提供
(全農パールライス(株))

6 With/Afterコロナ時代の食と農

(株)農林中金総合研究所
取締役基礎研究部長 平澤 昭彦氏 (下))

7 JAズームイン(福島:JA会津よつば)

8 「地味弁.com」に人気料理家の 地味弁レシピが登場! (米穀生産集荷対策部)

**8月26、27日に令和2年度
「JGAP団体認証講習会」を開催
(耕種総合対策部)**

JAタウンショップ紹介

ハロー!! JA全農にいがた

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



**Web
限定**

日本代表選手を食でサポート!
2019年振り返りレポート⑩
卓球・チームW杯②(広報・調査部)

News!



長澤会長ら、九州の豪雨被災地を訪問

復旧・復興に向けグループ丸となって支援

総務人事部

長澤豊会長と菅野幸雄副会長、野口栄代表理事専務は7月21日、令和2年7月豪雨で被害に遭った地域へお見舞いのため、福岡県のJAみなみ筑後とJA熊本経済連を訪問しました。

JA福岡中央会の乗富幸雄代表理事会長（JA全農ふくれん運営委員会会長）とJAみなみ筑後の吉田昭組合長、JA熊本経済連の丁道夫代表理事会長からはそれぞれの地域の被害状況

について説明を受けました。長澤会長からはお見舞いの言葉とともに、一日も早い復旧・復興に向けてJAグループが総力をあげて支援することを伝えました。



JAみなみ筑後の吉田組合長（左から4人目）にお見舞を手渡す長澤会長



現地で被災状況を聞く長澤会長

News!



「とれたて元気市 広島店」親子農業体験を開催

直売所を起点に元気な地域づくりに取り組む

広島県本部

広島県本部の農産物直売所「とれたて元気市 広島店」は6月、東広島市河内町にあるJA西日本営農技術センターで親子農業体験を開きました。

農業に触れ、楽しさを知ってもらおうと、「とれたて元気市 広島店」が主催し、5組21人の親子が参加。当日は、全農職員が各作物の特徴や作業内容を説明し、参加者

はサツマイモの定植やジャガイモとタマネギの収穫を行いました。この取り組みは今後も継続し、秋にはサツマイモの収穫を予定しています。



農業体験でサツマイモを定植する天海さん親子

親子で参加した広島市安佐南区の天海琥太郎くん（5）の父親は、「子どもが非常に楽しんでいたので秋の収穫にも参加したい」と話していました。

これからも農産物直売所を起点に、地域の活性化や、消費者が農業に触れる機会を増やす取り組みを続けていきます。



共同購入トラクター 宮城県内受注 100 台達成

生産資材コスト低減に貢献

宮城県本部

宮城県本部が全農自己改革の一環として取り組んでいる共同購入トラクター（大型クラス）の受注が100台に達成しました。

宮城県本部が自己改革の一環として取り組んできた大型クラスの共同購入トラクター「YT357JZ」は、宮城県の生産者に好評をいただいております。100台目の購入者はJA新みやぎ栗つこ地区管内の高橋保さんです。購入を決意するに当たって、信頼するJA農機担当者からの熱心な提案があったことが決め手になったとのこと。また、共同購入トラクターを見た感想

は「第一印象がカッコいい。シンプルな機能は牧草の刈取作業に十分使える」とのことでした。

大型クラスの共同購入トラクターは今年度が取り組み最終年度となりますが、今年度は中型クラスの発売も予定されています。これから宮城県本部はJAグループ宮城一丸となって共同購入トラクターの提案活動を進め、生産者の営農活動を支援します。



100台目の購入者の高橋さん(右)



生活困窮者支援に協賛

生活クラブを通じ、福祉団体へ米25トンを提供

全農パールライス株式会社

全農パールライス株式会社は、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会（以下生活クラブ）の生活困窮者支援に協賛し、パールライス25トンを提供しました。

全農パールライス(株)と生活クラブは、食の共同購入を通じて長く提携関係を築いています。生活クラブでは、各地域で福祉や助け合いの活動と事業を行い、子ども食堂や生活困窮者支援



生活クラブから福祉団体へ支援したお米を提供

などに取り組んできました。今回、生活クラブが新型コロナウイルス感染症拡大の影響について、連携する福祉団体と情報交換を行ったところ、今まで以上に困難を強いられる生活困窮者に必要なものは「主食であるお米」という声があがったため、全農パールライス(株)に対し協力を要請しました。同社はその要請に賛同し、生活困窮者へお届けするためのお米として山形県産米など25トンを提供しました。

全農パールライス(株)では、今後も生活クラブと連携し、さまざまな支援活動に取り組んでいきます。

小島よしおさんが「田んぼの生きもの調査」の魅力を発信



生きものを捕まえて歓声を上げる小島さん

こじま よしお 1980年、沖縄県島尻郡生まれ。早稲田大学教育学部卒業。サンミュージックプロダクション所属のお笑いタレントで、「ごぼうのうた」「コメヂカラ」など、農畜産物をモチーフとした歌やダンスで子どもたちに大人気。Youtubeチャンネル「小島よしおのおっぱいチャンネル」では小学生向けの授業で人気を博している。



五感で楽しめる 貴重な体験でした



——今回、田んぼの生きもの調査を体験して、率直に感じたことを教えてください。

小島よしおさん まずは田んぼの中に素足で入った感触がとても気持ちよかったです。初めはぬるぬるしていて、何とも言えない感触でしたが、途中から癖になつて。もう時間があつという間で、気が付いたら1時間半以上経っていました。田んぼに入らないと出合えない虫がいることも分かり、五感

全農は、子どもたちに農業と環境の深い関わりや生物多様性保全の大切さを伝えるために、「田んぼのいきもの調査」を実施しています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、開催できない地域も多くあります。そこで全農は、人気お笑いタレントの小島よしおさんとタイアップし、田んぼの生きもの調査の魅力を伝える番組を制作、小島さんのYouTubeチャンネルで放送しています。田んぼの生きもの調査に挑戦した小島さんに、その魅力や子ども向けYouTubeチャンネルに込めた思い、「食」に対する考え方などをお聞きました。

【広報・調査部】

で楽しめる、とても貴重な体験でした。

お米を食べることで 農家、生きものを 応援したい



——今回、田んぼの生きもの調査を通して子どもたちに伝えたいこと、お気持ちを教えてください。

小島さん 今、お米をはじめ農作物はスーパーやコンビニで簡単に手に入るのですが、どこでどのように取れているのかを知らない子どもが多いということが気になりました。そういう子どもたちには、お米はこう

いう場所までこうやって出来ているんだよ、ということも伝えたいです。生きものがいるのは田んぼがあるから、そして僕たちはお米を食べることで、その田んぼを支えることができるんだということを本当に伝えたいですね。田んぼや田んぼを支えている農家の人たちが減っているの。今回の動画で、田んぼが減っていること、支えてくれている農家の人

たちが減っていることに興味を持ってくれる子が1人でも増えるといいなと思います。

休校の子どもたちへ

「おっぱッピー小学校」

——YouTubeチャンネル「おっぱッピー小学校」を始めたきっかけを教えてください。

小島さん きっかけは、新型コロナウイルスの影響で学校が休校になっ

て、子どもたちの学力が下がってしまったのを何とかできないかというところからですね。そういう親御さんの声を聞いたんです。子ども向けにYouTubeでライブ配信などをやっていたので、じゃあ「おっぱッピー小学校」をやってみようと思いましたが、今は算数の授業が多いですが、今後野菜栽培についてとか農業系の授業もやっていきたいなと思っています。なので今回の課外授業は僕にとっても勉強になりました。秋の稲刈りの時期にも何かやりたいなと思います。

——小島さんの一番好きな食べ物は何ですか。



図鑑を見ながら
捕まえた生きものを観察する小島さん



ン」(官民一体となって推進する国産農林水産物の消費拡大の取り組み)のアンバサダーにも選んでいただいたので、「国産」をより意識するようになっていきますね。肉も、国産を選んでいきます。



今回、小島さんが「田んぼの生きもの調査」に挑戦した様子は、YouTubeチャンネル「小島よしおのおっぱッピーチャンネル」内で開講している「おっぱッピー小学校」の特別授業として配信しています。

また、全農広報部「田んぼの生きもの調査」でも随時本企画と連動し情報を発信していきます。ぜひ、併せてご覧ください。

YouTube
小島よしおの
おっぱッピー
チャンネルはこちら



全農広報部
田んぼの
生きもの調査
Twitterはこちら



With/Afterコロナ時代の食と農

前号につづき、農林中金総合研究所取締役基礎研究部長の平澤明彦氏に
グローバル視点で見る今後の農畜産物流通について、お聞きました。

【広報・調査部】

グローバルなコロナ禍による食料安全保障上の 課題と農畜産物流通（下）

株式会社農林中金総合研究所 取締役基礎研究部長 平澤 明彦氏



各地の対応

（1）輸出制限、低所得国への影響

ロシアやベトナムなど20カ国は、国内の安定供給を確保するため食料の輸出を制限・禁止した。これに対して臨時G20農相会議（4月21日）や、FAOは慎重な対応を求めた。最近ではWTO農業委員会（6月18日）でも、輸入国側の食料安全保障の観点から輸出制限を抑制する提案が多く、多くの国からなされた。

日本の主要な輸入先は輸出制限を課しておらず、また港湾施設や海運の大きな障害も生じていないため、日本の食料調達には特段の問題は生じていない。

一方、従来から国民が十分な食料を得ていない低所得国の状況については、サプライチェーンの混乱や人の移動の制限が食料不足に直結する懸念があるとしてFAOが警告を発し、農業資材等の支援が必要と訴えた。実際に、南米やアフリカなど一部の国では既に食料不足に由来する暴動が発生している。

（2）欧米の農家支援策

世界では50カ国がCOVID-19危機に対応して農業支援策を導入した。中でも、米国は190億ドルに上る大型の農業支援措置を導入し、大きな

損失を被った畜産・酪農を中心に補償を行っている。これは2018年から2年続きて実施した貿易戦争の補償を上回る規模であり、WTO農業協定で認められた補助金額（AMS）の制限枠を超過するとの見方もある。

EUは乳製品や食肉、野菜・果実などの市場隔離や生産調整措置を導入したほか、農村振興の補助金残額を農家への補償に活用し、これをWTO協定上の緑の政策であると主張している。さらに、5月27日にはコロナ禍によって生じた空前の不況に対処するための復興予算案を提示した。「緑の復興」を掲げて気候変動や環境保全に適合的な社会経済への移行を促進する方針であり、その一環として農業予算も積み増す。また、フードチェーンの気候・環境対応方針を示した「ファーム・トゥ・フォーク戦略」ではコロナ禍を受けて食料安全保障の確保を課題の一つに掲げ、2021年までに緊急時対応計画を策定する予定である。

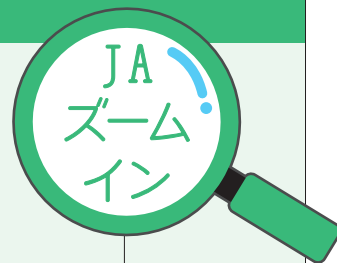
今後の注意点

COVID-19収束のめどは立っておらず、今後も各地の食料供給に予期せぬ混乱が生じる可能性は否定できない。コロナ禍への対応に追われる中で新たな問題に対処する余力は

そがれているとみられ、複合的な要因による食料供給の不安定化にも注意が必要である。例えば、アフリカではCOVID-19による移動制限のため、サバクトビバッタが発生しても専門家の現地入りに支障をきたしているという。

今後は感染防止に努めることは無論であるが、不測の事態に備えてフードサプライチェーン全体の回復力（レジリエンス）を強化するべきである。日本の状況に即して言えばこの春以降の経験に照らした弱点の整理と対応策、需要の変化に応じた供給側との速やかなマッチング、政府による適時の経営安定・支援策、主要輸出入国の動静にかかる情報の収集と分析が当面の課題である。今後とも世界的な食料供給には不安定化のリスクがあるため、中長期的には国内の農業生産基盤の維持を含めた食料調達戦略が重要であろう。

また、コロナ禍による世界的な景気後退の影響も注視する必要がある。所得に占める食費の割合が高い低所得国や低所得層にとっては食料確保の困難さが増す懸念がある。食料安全保障以外の論点としては、高級食材や外食の需要が元通りに回復するには時間を要する可能性があるだろう。



念願の生産と販売の核

「会津野菜館」が竣工

JA会津よつばは平成28年3月、会津地方の4JA（会津いいで・あいづ・会津みなみ・会津みどり）が合併して誕生しました。同JAは生産者の要望を受け、今年6月21日に野菜集出荷施設「会津野菜館」を竣工しました。

全国初のJAと全農 共同で設置・運営

会津野菜館は、国庫補助事業「産地パワーアップ事



会津野菜館 建築工事

会津野菜館の竣工でテープカットする関係者



生産者の要望を受け完成した会津野菜館

具体的には、専用システムで共用のコンテナの受け払い管理を行い、生産者が各集荷場へ出荷物を搬入した時点で、会津野菜館

業」を活用し、同JAと福島県本部が共同出資・共同運営を行う全国初の試みです。予冷設備を兼ね備えた3階建ての施設は、アスパラガス、きゅうり、チェリートマトの選果・選別を行うとともに、会津全域の青果物を集約し集出荷体制の一元化を図ることで、輸送コスト削減やロット拡大による有利販売につなげ、農家手取りの最大化と農業振興に貢献できる施設でもあります。

でその数量を把握することができ、各集荷場から会津野菜館までの輸送と選果作業計画を調整することが可能です。また、個選品についても、各集荷場に集められた青果物の数量を会津野菜館で把握できるため、会津野菜館で選果した数量を合わせた中での分荷指示が可能となり、需給バランスを考慮した、出荷数量の調整や有利販売を実現することが可能となります。

さらに、JAと全農の共同運営で業務の効率化を図り、JAは営農指導、全農は販売事業をそれぞれ強化します。生産者が同施設を最大限に活用することで、生産に集中できる環境を整え、さらなる規模拡大ができる

JA会津よつば (福島県)



概要		令和2年2月29日現在
正組合員数	2万7139人	
准組合員数	1万9076人	
職員数	1131人	
販売品取扱高	177億6千万円	
購買品取扱高	93億4千万円	
貯金残高	2911億3千万円	
長期共済保有高	1兆4080億円	
主な農産物	会津米、トマト、きゅうり、アスパラガス、会津身不知柿、会津牛他	



アスパラガスの選果ライン



会津野菜館ロゴマーク

応募の中から選考しました。会津盆地から見える磐梯山を背景に、会津野菜館から出荷される3品目を配置。このロゴマークは同施設の外壁2カ所に掲示し、また出荷用資材などにも表示することで「会津野菜館ブランド」を広く全国に発信していきます。

よう積極的に支援します。また、同JAでは、今年度から営農指導を強化するため、指導に特化した「指導担当者」と集出荷場などで荷受け・検品および集出荷業務を担当する「販売担当者」を配置し、明確な業務体系を確立しました。

シンボルとなる ロゴマーク作成

また、会津産農産物の安全・安心の目印となるロゴマークを、全国168点の

今後は、会津野菜館を拠点に、生産者とJA、全農が一体となり、消費者に喜ばれる「安全・安心な農産物」を届けることはもちろんのこと、会津野菜館が生産基盤の核となり得るよう関係者一同、精いっぱい邁進していきます。

映えない、けどおいしい!

「地味弁.com」に人気料理家の地味弁レシピが登場!

全農は米消費拡大企画の一環として、「地味だけどおいしい」、お米を使ったお弁当を、特設サイト「地味弁.com」で紹介しています。【米穀生産集荷対策部】

今回、人気料理家の栗原心平さんとアジア料理が得意な料理研究家のエダジュンさんが考える地味弁のレシピを公開しました。お弁当に関する栗原家のエピソードや、「パクチーボーイ」ことエダジュンさんの身近な食材でできるエスニック地味弁を紹介しています。

今後も人気料理家の地味弁を続々掲載していきますので、ぜひご覧ください。

全農では、国産米の消費拡大のため、今後もさまざまな形でお米やごはんの魅力を発信します。

全農が提唱する地味弁とは……

①お米はマスト!
お米を楽しめてこそ地味弁

②「映(ば)え」禁止!
SNS映えは気にしない

③品数2品程度!
お手軽さは美德である

④色数は3色程度!
シンプルな美しさを目指せ

⑤調理時間は10～30分!
長続きの秘訣は短時間調理

地味弁
HPはこちら
<http://jimiben.com/>



栗原心平さんの
特別インタビューも掲載



エダジュンさんの「台湾風
照り焼きのつけ弁当」

8月26、27日に令和2年度「JGAP団体認証講習会」を開催

耕種総合対策部は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期していた「JGAP団体認証講習会」を、8月26、27日に開きます。【耕種総合対策部】

JGAP団体認証講習会は、日本GAP協会が定める団体認証研修に該当し、団体認証事務局を担うために必要な人材の育成を目指しています。JGAP指導員基礎研修および当講習会を受講し試験に合格することで、JGAP内部監査員要件を満たすことができます。

当初、6月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、8月26、27日に延期して開催します。団体認証講習会は、他での開催が限られるため、この機会を逃さず、ぜひ受講してください。

開催要領は、耕種総合対策部GAP推進課(E-mail:zz_zk_gapsu@isinka@zennoh.or.jp)までお求めください。

令和2年度JGAP団体講習会概要

日程	8月26日(水)10時～ 8月27日(木)17時半	2日間
開催場所	JAビル27階大会議室 住所:東京都千代田区大手町1-3-1	
受講料 (消費税込)	4万2500円	
定員	30人	
申込締切日	8/14	



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

ハロー!! JA全農にいがた

新潟県のエダマメ作付面積は全国1位で、消費量も全国有数です。現在も多くの生産組合があり、お互いが切磋琢磨しながら食味の良さを競い合っています。そんなエダマメをこよなく愛する新潟から、おいしいエダマメを出荷しています。

黒埼茶豆は、実入り(豆の太り)よりも味を優先して、実入り8分程度の若いうちに収穫するので、エダマメの中でも特に風味と甘みが楽しめることが特長です。鮮度が命のエダマメ、お手元に届いたらすぐにゆでてください。もしその日に食べない場合は、硬めにゆでて水気をきり、冷凍保存してください。解凍する時は沸騰したお湯に凍ったまま入れ、さっとひとゆでするとおいしく食べられます。



くろさき茶豆 本茶豆 1.5kg……3200円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちら <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com